



バスラ日誌（4月14日）

- 1 一昨日のIDF攻撃に使用されたロケット弾の残骸が司令部J3の部屋に運ばれてきたので写真を撮った。想像していたよりも大きなものであったが、爆発後に弾体部分が飛散せず、めくれあがっているだけなので、さほど広い地域に破片効果を及ぼすものではないと思う。大きさを示すために横に煙草のボックスを置いてあるので、概略の大きさはわかってもらえると思う。



破片効果は少ないと思うが、アスファルト道に一昨日の写真のような穴が開くわけだから、居住区の薄い屋根では役には立たない。完全耐弾化が望ましいだろうが、費用対効果も計算されるのだろう。可能な限り迅速に対応し、被害を極限することで、それを補おうとしているのだと思う。毎日、警報チェックが行われており、警備も厳しくなってきた。また、道路沿いには避難用のコンクリート製ブロックが1週間ほど前に設置された。

しかし、最近2週間内に5回の攻撃があり、1月からの合計も11回25発になった。宝くじに当たるようなもので、どうしようもないが、我々も、可能な限り気をつけたいと思う。多国籍軍関係者を含めて被害がでないことを祈っている。

- 2 お隣は、相変わらずよくしゃべる。電話も多いし、特に声が大きいので困る。いい人なのだが、騒々しいのは何とかならないだろうか。救いは、彼の勤務時間が非常に短いことである。

- 3 本日快晴。バスラ4名、極めて健康。